

# 小児



## コーナー

あじま診療所  
小児科  
森 英一

# 「熱性けいれん」



熱性けいれんは「通常38℃以上の発熱に伴って乳幼児期に生ずるけいれんで、中枢神経感染症、代謝異常など、けいれんの原因になる明らかな異常のないものをいう」とされています。有病率は7～8%くらいで、一回だけですむことが多く、二回目をおこす人は30%くらいです。大人になっておこす人はいません。けいれん発作の時の対応は、なかなか実際の場面ではむつかしいのですが、あわてずけいれんの様子をよく観察することが一番大切です。5分以上続く時は緊急の受診が必要ですが、実際には1～2分くらいで自然におさまることがほとんどです。繰り返えしたり、けいれんが長い時は、発熱時に予防用の座薬を使用することもあります。

